# 新約聖書には女性の牧師がいる

マーグ・モウチコ（Marg Mowczko） ・ ドイツ語訳：Hans-Jörg Ronsdorf ・ 2021年5月 ・ 2026年10月改訂

**ここで言う「牧師」と「女性牧師」とは、教会の形態に応じて、羊飼い、長老、監督、あるいは指導者のことです。新約聖書は彼らを、たいてい単に「仕える者」と呼んでいます。「牧師」に当たる語 pastor はラテン語で、「羊飼い」を意味します（ギリシア語では poimēn）。教会における奉仕の呼び名としては、新約聖書ではエペソ人への手紙4章11節にしか出てきません。**（ドイツ語訳者注）

新約聖書のどこに女性が牧師だったと書いてあるのか、と私はもう何度目かわからないほど尋ねられました。私がTと呼ぶある人が、情報を求めてきたのです。彼は、「スーザンは説教者であり教師であった」というようなことがはっきりと書かれている、「揺るぎない」、「白黒はっきりした」例が欲しいと言いました。返答として、私はTに、これまで会話や記事の中で何度も述べてきた論点と論拠を繰り返しました。

私は自分の返答を記事として公開するつもりはありませんでした。しかし、5月6日にサドルバック教会（Saddleback Church）で三人の女性牧師が按手を受けたことをめぐるオンライン上の騒ぎを見て、Tへの返答を手直しして広げ、ここに公開することにしました。

## パウロの奉仕の用語

使徒パウロは、その手紙の中で、だれをも牧師とも、教会の長老とも、監督とも呼んでいません。彼と共に奉仕していた人々を指して彼が好んで使った呼び名は、（多い順に）同労者、兄弟／姉妹、diakonos（「仕える者／執事」）、apostolos（「使徒／宣教者」）、そして働き手です。彼はこれらの語を、テモテやシラスのような男性にも、プリスカ、ユウオディア、シンティケ、フィベ、ユニア、ペルシス、アッピアなどの女性にも使っています。

さらにパウロは、同じ一人の人に対して、しばしば複数の語を用いています。彼は奉仕の用語について柔軟でした。決まった肩書きを使わなかったので、たとえば「シラス牧師」や「フィベ牧師」といった呼び方はありませんでした。

新約聖書の中で「牧師」と呼ばれている人を探しても、見つからないでしょう。しかし、地域教会（その多くは家の教会でした）で牧師として働いていた人々を探すなら、女性も男性も、そして夫婦も見いだすことができます（たとえば、コロサイのニンファ、ヨハネの手紙第二に出てくる小アジアの「選ばれた夫人」）。

## エペソの教会の例

新約聖書の諸教会は、今日の私たちの教会の大半とは組織のされ方も働き方も異なっていました。そのため、公式の、あるいは固定した肩書きを持ち、名前の知られた、按手を受けた地域教会の職務担当者を見つけるのは難しいのです。

たとえばエペソの教会には、監督たち（episkopoi。おそらく家の教会の後援者、主人役で指導者）[1]、男性と女性の仕える者（diakonoi。その奉仕の内容は詳しく記されていません）、男性と女性の長老たち（presbyteroi。長老の中には教える者もいました）、そして名簿に登録されたやもめたち（彼女たちはやがて教会の中で独自の身分となりました）がいました。[2]しかし、これらの職務や役割を担っていた人々のうち、だれ一人として特定されたり、名前を挙げられたりしてはいません。**一人もです！**

三人の偽教師（テモテ第一1:20、テモテ第二1:15）を別にすれば、仕える者また会員としてエペソの教会と結びつけられている人々は、パウロの代理として限られた期間エペソにいたテモテ（テモテ第二4:13、21参照）、プリスカとアキラ（テモテ第二4:19）、そしてオネシフォロの家の者たち（テモテ第二1:16、4:19）だけです。[3]

プリスカはおそらく、新約聖書の教会の女性指導者、あるいは女性牧師として得られる最もはっきりした例でしょう。彼女が一部の人々から教会の指導者として認められない理由の一つは、彼女が女性であるという事実は別として、人々が、パウロが仕える者と奉仕についてどのように語っていたかを理解しておらず、また一世紀中ごろの諸教会がどのように働き、組織されていたかを理解していないことにある、と私は推測しています。

エペソで、そして後にはローマで、プリスカは、コリントのステファナとまったく同じように、仕える者であり指導者でした。いや、彼女とその夫は、ステファナとその仲間の奉仕者たちよりも、奉仕においてさらに多くの経験と影響力を持っていたかもしれません。

## 説教者と教師

では、「説教者」と「教師」という語はどうでしょうか。

新約聖書で「説教者」（kēryx）と呼ばれているのは、パウロとノアだけです。「説教者」という語は、新約聖書では、今日多くのキリスト者が使っているのとは違う使われ方をしています。別の記事で私は、新約聖書における「説教する」に関係する語を、名詞も動詞も扱っています。これらの語は典型的に、まだそれを聞いたことのない人々に福音のメッセージを告げ知らせることとの関連で用いられています。

教会との関連で「教師」（didaskalos）と呼ばれているのは、パウロ（何度か）と、シリアのアンティオキアで「預言者や教師」と呼ばれている、名前の挙げられた指導者たちだけです。すなわち、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、マナエン、そしてサウロ（彼は当時そう呼ばれていました）です（使徒13:1）。テモテへの手紙第一2章7節とテモテへの手紙第二1章11節で、パウロは自分を三つの語で表しています。説教者（宣べ伝える者）、使徒、そして教師です。

使徒の働きでは、「教える」という動詞がさまざまな人について使われています。その中には、ペテロとヨハネ、パウロとバルナバ、そしてプリスキラとアキラに正されたアポロが含まれます。アポロ（エペソで教えていた、雄弁で教養のある男性）がプリスキラとアキラによって正され、そ

のことが使徒の働き18章で肯定的に記されていることは、確かにこの夫婦の奉仕の重要性について何かを私たちに語っています。

パウロは時おり手紙の中で、「教える」という動詞を自分自身やテモテなどについて使っています。そして「教える」という動詞（「女預言者」という名詞と同様に）は、ヨハネの黙示録2章20節で、ティアティラのイゼベルについて使われています。彼女の例は、女性が教会の指導者であったことを示しています。もっとも、彼女は悪い女性指導者、誤った女性教師の例ですが。（彼女には、自分の不品行を悔い改めるための時が与えられました。）

注意すべき重要な点は、奉仕についての一般的な指示の中で、パウロが、教師／教えの奉仕や牧師の奉仕は女性には禁じられている、とは一度も言っていないことです。ローマ人への手紙12章6–8節、コリント人への手紙第一12章28節、エペソ人への手紙4章11節を参照してください。そしてコリント人への手紙第一14章26節とコロサイ人への手紙3章16節で、パウロは、教えを語ることを含む奉仕への参加を勧めています。

## 用語と権威

Tは、「スーザンは説教者であり教師であった」というような、はっきりした記述を求めていました。実際、私たちには、ある女性の奉仕者についてのパウロのはっきりした記述があります。とりわけ彼は、フィベが「ケンクレアにある教会の diakonos」であったと言っています（ローマ16:1–2）。diakonos という語について一部の批判者が言っていることとは反対に、パウロはこの語を典型的に、自分自身を含むキリスト教の奉仕者に対して用いていました。フィベは、ケンクレアの教会の奉仕者だったのです。[4]

問題は、新約聖書に牧師として仕えた女性がいないことではありません。そういう女性はいるのです。一部の人々にとっての問題は、パウロや他の手紙の著者たち、そして使徒の働きの著者が、奉仕者について、私たちの大半がなじんでいるのとは違う呼び名を使っていることです。そして時には、これらの著者は、明らかに奉仕者である人に対して、**何の**呼び名も使っていません（たとえば使徒の働き6章1節以下のステパノや、コリント人への手紙第一16章15–18節のステファナ）。

さらに、多くのキリスト者は、権威について誤った考えを持っているために、女性は教会の指導者にはなれないという考えにしがみついています。**しかし、奉仕のための権威とは、信仰の仲間に対する権威ではなく、ある特定の奉仕において働くための、神からの権能付与であり賜物なのです。**真のキリスト教的な奉仕とは、人々に対して権威を振るうことではなく、へりくだって彼らに仕えることです。

## 結びの考察

エルサレムの教会は男性によって指導されていたように見えますし、シリアのアンティオキアの教会もそうでした。ですから、この「モデル」に従うことを選ぶ人もいるでしょう。しかし、シリアから北へ、西へと進んでいくにつれて、女性の奉仕者の名前がますます多く現れてきます。とりわけマケドニアとローマの諸都市の教会についての節においてです。フィベ、プリスカ、ニン

ファ、そして彼女たちのような女性たちが、それぞれの教会で影響力のある指導者であったことを、私は疑いません。

ローマ人への手紙16章1–16節という一つの段落の中で、パウロは十人の女性に言及しており、そのうち七人を何らかの形で奉仕者として描いています。フィベ、プリスカ、マリア、ユニア、トリファイナ、トリフォサ、そしてペルシスです。これらの女性たちは牧師とは呼ばれていませんでした。新約聖書のどの男性も教会の牧師とは呼ばれていないのと同じです。しかし、少なくとも彼女たちのうちの何人か、そして新約聖書のほかの女性たちは、牧師として働いていました。彼女たちは、自分の教会の会員たちの霊的な、また身体的な幸いに責任を負っていたのです。**ですから、男性と女性が教会の指導者や牧師となることには、聖書的な根拠があるのです。**

原文：マーグ・モウチコ（Marg Mowczko）「There are Women Pastors in the New Testament」2021年5月9日、https://margmowczko.com/women-pastors-new-testament/ — 著者の厚意による許可を得てドイツ語に翻訳。

---

**注**

1. **Episkopoi** は、時に「司教」と訳されます。しかし、教会のこの初期の段階では、これらのエペソの **episkopoi** が、一つの町や地域にある複数の教会を監督する司教であったはずはありません。
2. これらの職務は、テモテへの手紙第一3章と5章で言及されています。
3. パウロはまた、ティキコをエペソに遣わすことにも触れています（エペソ6:21、テモテ第二4:12）。
4. パウロは、**diakonos** という語の使い方において一貫していました。彼はこの語を典型的に、霊的な任務を委ねられた代理人に対して用いました。こうした **diakonoi** には、パウロ自身（ローマ15:25、コリント第一3:5、エペソ3:7、コロサイ1:23など）、テモテ（テモテ第一4:6）、エパフラス（コロサイ1:7）、ティキコ（エペソ6:21–22、コロサイ4:7–9）、アポロ（コリント第一3:5）、フィベ（ローマ16:1）、そしてイエス・キリストご自身（ローマ15:8）さえも含まれます。ローマ人への手紙13章4節の **diakonos** は、キリスト教の奉仕者ではありませんが、やはり神から使命を委ねられた神の代理人です。パウロが偽使徒たちを、悪魔的な任務を帯びたサタンの代理人（**diakonoi**）として描いていることに注意してください（コリント人への手紙第二11章13–15節）。そしてガラテヤ人への手紙2章17節で、パウロは、イエスが罪の **diakonos**、すなわち罪の代理人なのかという修辞的な問いを発しています。これらが、パウロの手紙における **diakonos** のすべての用例です。**彼はただの一度も、この語を単純な、あるいはありふれた召使い（手先という意味での）に対して使ってはいません。**